

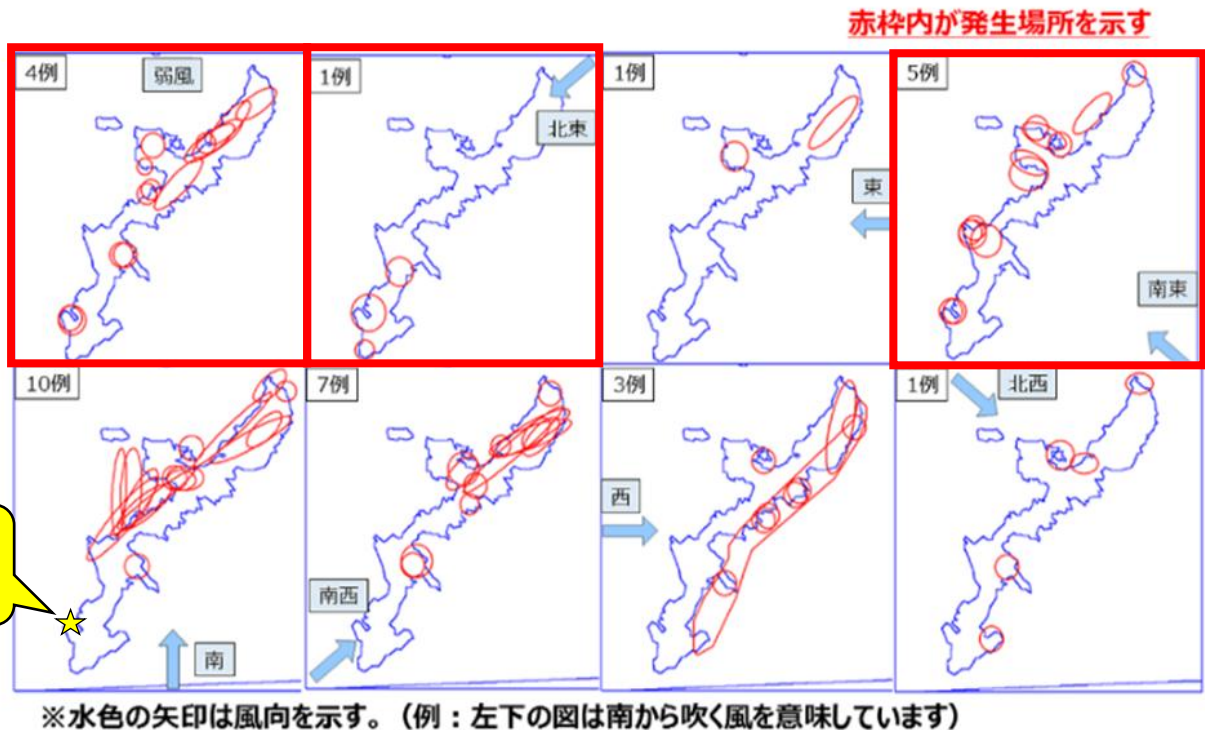
第44 回沖縄の特異現象「カタブイ」

航空気象群ホームページ「気象の杜」をご覧くださいましてありがとうございます。私は、日本の南国、沖縄県に所在する那覇気象隊で駆け出しの予報官をしています。本州では、分厚いコートを取り出し、日々、寒さに震えながらお過ごしのことと思います。沖縄県では照り付ける太陽が弱まり、ようやく過ごしやすい季節になってきたところです。

さて今回は、そんな沖縄で発生する特異な気象現象「カタブイ」について紹介します。カタブイとは、ある場所では雨が降っているのに、目に見えるすぐ隣では太陽光が射し、晴れているというような現象です。とても局地的な気象現象で、ある人の体験談によると、海でマリンスポーツに興じていたところ、数キロ離れた場所で積乱雲と雨柱が見え、「あそこだけ雨が降っている！」とはっきり分かったといいます。また、アスファルトの濡れている部分と乾いている部分が、くっきりと分かれているといったこともあるようです。かくいう私も車で走行中、晴れていたにもかかわらず、目の前に大きな雨雲と雨の壁のようなものが見え、近づいていくと、突如として大雨が車に打ちつけ、ワイパーを全開にしても目の前が見えづらいついた経験をしたことがあります。片側だけで雨が降っているということから、「片降り(カタブリ)」、転じて「カタブイ」というようになりました。

このカタブイの発生条件はいくつかの要因があります。高気圧に広く覆われ晴れている日、日射の影響で陸地付近の空気が暖められます。空気は冷たいほど重く、温かいほど軽くなるという性質があるため、暖められた空気は持ち上げられ、上昇気流を生じます。上昇した空気は冷たい上空で冷やされ、凝結し、雲を発生させます。その際、陸地付近では上昇した分の空気を補うために周辺の海から湿った空気が流れ込み、次々と上昇、あっという間に雲は発達、局地的な積乱雲となり、大雨をもたらします。ただ、カタブイによる積乱雲の寿命は短く、約30分で衰弱し、晴れた状態へと戻ります。発達するのがとても速いですが、衰弱するのも速いため遭遇すると、まるで、狐につままれたような気持ちになります。とても小さな範囲で短時間に発生する現象ゆえに、現在の数値予報の技術を持ってしてもカタブイをピンポイントで予想することはとても困難です。ただ、ピンポイントでの予想は困難です

が、大体の発生場所を特定することはできます。下表は、気象庁が調査した風向別カタブイの発生場所に関する資料です。



この資料によると、カタブイの発生には風向が大きく関わっており風下側の地域で発生しやすいことが分かります。風下側のほうが地形の影響を受けて風が集まりやすく、風と風がぶつかり、行き場を失った空気は上空へ上がり、上昇気流が強化されるためです。例えば、那覇空港と滑走路を共有している那覇基地は沖縄本島南部に位置しており北東風または南東風の時に発生しやすい傾向にあります。実際、今年の夏、太平洋高気圧に広く覆われ、晴れた北東風の日には那覇基地周辺で発達した積乱雲が次々と発生し発雷を伴うことが多くありました。ただ、沖縄県の地域別発生頻度としては、北部や中部で発生頻度が多く、那覇空港周辺の南部では比較的少ない傾向にあります。その要因としては、南部に比べ北部や中部の方が地形の起伏が多く、風の収束が発生しやすいためです。

ここまでカタブイについて紹介しましたが、私は今年の夏、身をもってこのカタブイの予想の難しさを痛感しました。カタブイを予報した日には発生せず、予報しなかった日には発生するといったことが何度かありました。予報を外すたび、自分の力量不足に苦々しい気持ちになっていました。皆さんも普段のストレスや疲労で後ろ向きな気持



ちになることがあると思います。そんな時に雨なんて降っていたら、
ついつい下を向きたくなりますよね。ですが、そんな時こそ上を向い
て歩きましょう。止まない雨はなく、止んだ後には綺麗な虹が見える
はずです。美しい虹を見て心を一転、前向きに生きていきましょう。
ここまで、お読みいただきありがとうございました。

出典：気象庁ホームページ